



バイオ製薬産業の構造転換期に必要な国の支援モデルとは？



開発主体は大手からスタートアップへ。産業支援の設計にも対応した転換が必要

世界：開発主体の逆転
(2011→2024)

大手 59%→27%
新興バイオ 29%→61%

日本：治験の世界シェア
(2013→2023年)

11%→4%

バイオベンチャー時価総額

日本 約7,089億円

韓国 約6.9兆円 (約10倍)

出典：IQVIA Institute／Citeline Trialtrove／iPark Institute作成

出典：日本＝グロース創薬ベンチャー36社(2026/9/11)／韓国＝KOSDAQ製薬指数129社(2026/6/19)

国の産業支援のありかた

現行モデル
(安定産業向け)

既存企業が自己利益で
投資判断

政府が呼び水的に
補助・減税

投資した当該企業が
直接回収

→ 裨益者＝出資者本人が前提

あるべきモデル
(構造転換期向け)

政府が未来の基盤
を整備

スタートアップが
基盤を利用し成長

エコシステム全体で
価値創出

既存大手はM&Aで長
期的・間接的に裨益

例：シンガポール
Biopolisモデル

→ 短期的・直接的な裨益者（スタートアップ）には資源がない。

産業転換期の世界的な競争のなかで、既存大手は長期的・間接的利益に資する余裕はない。



国の産業支援のありかた — 適用するモデルを転換する



既存の成熟産業構造を支える政策と、未来の産業構造を生み出す政策では国の役割も資金の出し方も異なる

	既存産業構造の支援モデル	未来の産業構造への先行投資モデル
目的	既存企業の投資・競争力強化を支援	まだ存在しない産業・企業を生み出す
前提	市場規模はほぼ一定、既存企業で分け合う	新しく生まれる少数の大成功が全体を牽引する
資金の出し方	既存企業が投資し政府が補助	政府が呼び水として資金を投入
スピードの基準	既存企業に合わせる	最も有望な挑戦者を最大限加速する
向いている産業	市場・事業モデルが確立した産業	技術・プレーヤーが大きく変化する 構造転換期の産業

国の産業支援に「未来への先行投資」という考え方が必要ではないか？